

令和2年度 漱石山房記念館 特別展  
TSUDA SEIFU AT SOSEKI SANBO

〔会期〕2021年  
1月26日(火)~3月21日(日)

〔会場〕新宿区立 漱石山房記念館 2階資料展示室  
〔開館時間〕午前10時~午後6時(入館は午後5時30分まで)  
〔休館日〕毎週月曜日  
〔観覧料〕一般500円、小中学生100円(通常展示共)

〔主催〕新宿区立漱石山房記念館(公益財団法人新宿未来創造財団)  
〔共催〕新宿区・新宿区教育委員会  
〔後援〕山梨県笛吹市・笛吹市教育委員会  
〔協力〕柏木博・大野淳一

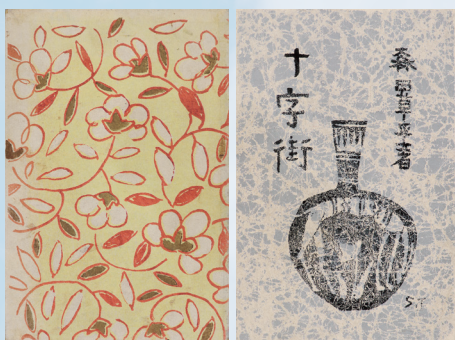


Natsume Soseki Memorial Museum  
新宿区立漱石山房記念館  
〒162-0043 東京都新宿区早稲田南町7  
tel.03-3205-0209 fax.03-3205-0211  
<https://soseki-museum.jp/>



# 漱石山房の 津田青楓

夏目漱石の『道草』を装幀した画家・津田青楓は、二〇二〇年に生誕一四〇年を迎えました。染織圖案やプロレタリア美術運動への関与など、青楓の画業についてはこれまでも検証が行われていますが、その文筆活動についてはまとまった研究は行われていません。青楓は『ホトトギス』や『白樺』などの文芸雑誌に小説を発表し、生涯に二〇冊以上の単著を刊行しています。画家青楓のみならず新しい文章は、「翻訳ものを読むような新しさ」で漱石山房の門下生たちをも唸らせ、漱石山房への青楓の出入りもパリで書かれた青楓の小説を読んだ小宮豊隆による紹介で始まりました。青楓は描くだけでなく、「書く」画家でもありました。本展示では、漱石や漱石の門下生たちの本の装幀、漱石山房を描いた絵画に加えて、青楓の文章に着目して、漱石に最も愛された画家・津田青楓に迫ります。



## 関連イベント

### ●ギャラリートーク

館内で担当学芸員による展示解説映像の放映を予定しています。詳しくは当館ウェブサイトをご確認ください。

### ●記念講演会 ※要申込

#### 「対談 津田青楓のデザインと文章」

日時: 3月7日(日) 14時~15時30分

講師: 柏木 博(武蔵野美術大学名誉教授)

大野 淳一(武蔵大学名誉教授)

申込: 2月15日(月)必着

会場: 漱石山房記念館

地下1階講座室・多目的スペース

定員: 40名(申込多数の場合は抽選)

料金: 500円(特別展招待券付)

応募方法: 往復はがきに講演会名・住所・氏名・電話番号・メンバーズ倶楽部会員は会員番号を明記の上、漱石山房記念館へ。

※感染症対策のため受講者数を制限しています。当選の後ご欠席される場合は必ず当館までご連絡ください。  
※講演内容は後日当館ウェブサイトにて無料配信いたします。あらかじめご承知おください。



### 【交通のご案内】

電車: 東京メトロ東西線「早稲田駅」1番出口より徒歩10分  
都営地下鉄大江戸線「牛込柳町駅」東口より徒歩15分  
バス: 都営バス(白61)「牛込保健センター前」より徒歩2分  
※駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

## Natsume Soseki Memorial Museum 新宿区立漱石山房記念館

〒162-0043 東京都新宿区早稲田南町7

tel.03-3205-0209 fax.03-3205-0211

<https://soseki-museum.jp/>

- 1 夏目漱石『道草』 岩波書店、大正4(1915)年 初版表紙(津田青楓装幀)  
橋口五葉から青楓へ、漱石作品の装幀者が変わったことを印象付けた
- 2 森田草平『十字街』 春陽堂、大正元(1912)年 初版表紙(右)、函(左)(津田青楓装幀)  
青楓の記念すべき初装幀作品
- 3 津田青楓 装幀圖案 鈴木三重吉『櫛』 大正前期  
三重吉が最も気に入っていた自著『櫛』(春陽堂、大正2(1913)年)の表紙装幀圖案
- 4 津田青楓『漱石と十弟子』 世界文庫、昭和24(1949)年  
十弟子が束になってぶつかる「漱石山房のフニキを出すことにした」随筆
- 5 津田青楓『漱石と十弟子』 昭和51(1976)年 紙本 著色  
同構図の作品は日本近代文学館蔵がよく知られているが、本作には青楓自身が描かれていて珍しい